

ひよこのみずあび No.69

令和6年7月発行
足立区障がい福祉センター
幼児発達支援室



新年度が始まり、3か月が経ちました。新しい生活に慣れ、楽しく過ごされているお子さんも、まだ少し緊張しているお子さんもいることと思います。

園や学校と、ご家庭とが、お子さん一人ひとりのペースを大切にしながら支援をつなぐことで、笑顔の毎日が送れるようにしていきます。

この『ひよこのみずあび』も、関係各所の方々のお手元に届き、お子さんを笑顔にするための一助となることを願います。

今号のひよこのみずあびのテーマは、『絵本』です。

絵本の楽しみ方は十人十色！色鮮やかな絵に引き付けられてじっと見入る子、ことばの響きの面白さに笑いが止まらなくなる子、自分の知っている事物が登場することに喜びや安心を感じる子、登場人物のことばや動きの模倣を楽しむ子などなど…。手に取った誰もが、それぞれの楽しみ方ができるところが、絵本の大きな魅力です。

療育の視点で考えると、お子さんが絵本を手にした時に、周囲の大人がどのような関わり方をするかが大切なポイントになります。

まずは絵本を好きになってもらうことが大切です。
そのためには、大人も一緒に楽しみながら絵本を読みましょう。

お子さんが選ぶ絵本は毎回同じかもしれないし、大人の好みや感覚とは異なるものかもしれません。お子さんの興味に寄り添い、ゆっくりと語りかけるように読むと良いでしょう。

お気に入りの絵本を、安心できる大人の声で聴くことによって、絵本が好きになり、身近な大人に対する信頼の気持ち、情緒の豊かさ、対人意識などの発達を促します。



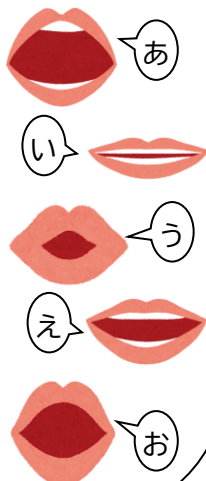
ここでは『おおきなかぶ』の絵本を例に、絵本を通した療育的な関わり方についてまとめてみました。

発語や発声を促します！

登場人物のやりとりを、「てつだって」「いいよ」という簡単なことばにして、大人が大きな口を開け、ゆっくりはっきり繰り返したり、「うんとこしょ、どっこいしょ」というリズムカルな掛け声をお子さんと一緒に言ってみたりしましょう。

口形模倣ができるようになったり、声を出したいという気持ちが育まれたりすることが期待できます。

また、オウム返しが多いお子さんや多弁傾向のお子さんに対しては、今誰がしゃべる順番なのかを視覚的にわかりやすくする配慮も有効です（例えば役の絵が描かれたパープサートを用意して台詞に合わせて提示する、台詞を言う子にマイクを向ける等）。



ごっこ遊びをしてみましょう！

かぶを引っ張る、かぶが抜けたら両手をあげて跳ねて喜ぶ、料理したり食べたりするなど、大人や友だちと一緒にやることで、楽しみながら様々な動きを経験する機会にできます。

簡単な衣装を用意すれば劇遊びに発展し、着たり脱いだりすることで、基本的生活習慣の向上も期待できます。



「おばあさんがおじいさんを」といった“助詞”を、視覚的に理解できるチャンスです。

また、おじいさんの次はおばあさん、おばあさんの次は孫娘、その次は…というように、短期記憶（ワーキングメモリー）の発達を促すことも期待できます。



おおきなかぶ



製作遊びに展開も！

かぶの絵を描いたり、登場人物や動物のお面を作ったりしてみましょう。その際は、取り組む姿勢をたくさんほめ、大人は子どもの作品を丁寧に取り扱いましょう。

様々な素材や用具に出会い、使う機会になり、たくさんほめられる経験は、自己肯定感を高めることにつながります。



環境設定も一工夫！

本棚やバッグに出し入れする、立てかけて置く、誰かに渡すといった行動に取り組める環境を、意図的に設定してみましょう。運動、認知、コミュニケーションの発達につながられます。



本物のかぶを用意して食育も！
実物の香りや感触を体感することで、お子さんの食への興味関心を高めるきっかけになります。



機関紙『ひよこのみずあび』は、
足立区公式ホームページ (<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>) 幼児発達支援室
ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）にアクセスすると掲載されています。

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI